東灘区の花

梅ものがたり

昭和61年(1986年)に梅は区の花に選定されました。　画：隅田富子

岡本の梅林

（文：中西輝夫）

今は往古のおもかげを偲ぶよすがもありませんが、大正末期頃まで西攝の梅の名所としてその名をうたわれ「梅は岡本 さくらは吉野 蜜柑紀の国 栗丹波」と広く世人に好まれた処で、季節には２万本の梅が咲き香りふくよかな香りがただよい、訪れた人に愛されていたとのことです。

寛政8年(1796年)頃「摂津名所図会」に岡本梅林が記載されその名を高め、益々賑わいを見る様になり、2年後山水奇観の著者、渕上旭江が景勝地として紹介、以後文人墨客(ぼっきゃく)が相次いで訪れ観梅を楽しむ様になりました。

明治7年(1874年)大阪神戸間に鉄道(今のJR西日本)が開通、また明治38年(1905年)には海岸沿いに阪神電車が開業して、遠方からの観梅客で賑わいましたが、大正9年(1920年)阪急電車が山麓沿いに岡本駅を設置した頃から、風光明媚な丘陵地帯で環境に恵まれたこの地は「沿線住宅地」として開発が進み、次第に岡本梅林も作付面積が減少して昔の面影が消え「梅林」も名のみの語り草となってしまいました。

昭和５７年３月、当時の神戸市長宮崎辰雄氏がこれを惜しみ、在りし日の梅林の復活を願い地元有志と図り、保久良神社境内、岡本八幡神社西南に土地を求め「梅林公園」として整備、保久良梅林、岡本(梅林)公園と名づけ一般に公開 季節ごとに大勢の人々が花と薫りを楽しむ事が出来る様になりました。

保久良神社

（文：保久良神社 宮司）

「わー、きれい」境内西側の保久良梅林から、ひろがる歓声。2月末より春暖の中、香りを楽しむ談笑の輪、花を愛でつつ日向ぼっこに興ずる人の群れ、和む団欒の鎮守の杜。「ほくらさん」と広く世に親しまれて、日々敬神愛山の道を登る保久良神社は、海抜185㍍で、金鳥山の中腹、古成層の天王山に鎮座し、平安期の延喜式（927年）に社名が記載された式内社であります。

当社は昭和13年(1938年)社殿改築時、出土した弥生式土器等や建物を囲む巨岩から、磐座(ｲﾜｸﾗ)、磐境(ｲﾜｻｶ)と呼ばれる古代祭祀蹟地として認められました。祭神、須佐之男命、推根津彦命をご奉斎し、中古、近世にかけ本庄荘９ヶ村の総氏神として崇敬され、神輿を社殿に飾り村民総出の姿は、江戸期の「摂津名所図会」などに、京都祇園会と同じと記載されています。

「灘の一つ火」と航海者から篤く崇拝される社頭の古石燈は、祖神の御事蹟顕彰と海上安全を祈りて北畑天王講の人々により、往古より御神火を灯しつづけてまいりました。万世(ﾖﾛｽﾞﾖ)の幣(ﾇｻ)にと薫る梅の花と植樹された紅白梅林の繁茂と、東に生駒、南に金剛葛城、西に淡路茅渟の海を眺め、四季の情趣を境内にて清新の気を養って戴きたく存じます。

御影の天神さま

（文：綱敷天満神社 宮司）

ここ東灘には、通称「御影の天神さま」と呼ばれる、綱敷天満神社があります。

菅原道真公とのゆかりは、社伝によりますと「菅公御年42歳で讃岐の国守として下向された時に雷神の社に参拝され、天穂日命(あめのほひのみこと)の子孫であり、この地を治める山背王を訪ねられた。

また御年57歳で太宰府へ左遷の時にもお立ち寄りになり、山背王(やましろのきみ）と別れを惜しまれた。山背王は、配流の身であります菅公を案じ、石の上に綱を敷いてお迎えされた」と云われております。

梅の樹は境内に約120本あります。阪神淡路大震災で社殿を始め全ての建造物が倒壊しましたが、氏子・崇敬者の心温まるご浄財を賜り、平成９年に社殿を再建致しました。

もともと梅の樹の老木は境内に10数本ありました。

社殿再建後崇敬者の皆様方が、御神域の復興と神社の隆昌を祈願して梅の樹を次々と奉納されました。

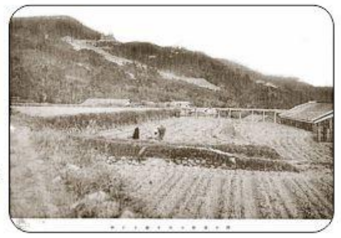
2月25日の梅花祭では、『雅楽奉納』『梅がゆ接待』を執り行い多くの参詣者で賑わっております。また、6月30日の夏越大祓では、茅の輪くぐりの後、当神社自家製の『梅酒』を飲んでいただき、元気に夏を乗り切れますようにご祈願いたしております

昔の岡本梅林

武庫郡誌(全)復刻版 昭和４８年5月１５日印刷(復刻)

岡本の地たる。東は田邊と北畑の二村に接し　西は野寄に續(つづ)き、南は田中に隣す。

北に山を負ひ、南は海に面するを以て気候甚だ温暖なり加ふるに夏冬通じて空気新鮮ならば、頗る静養に適する。また土地肥沃にして植物能く繁茂し天然の風土は古来此地に梅樹を生成せしめたり。



梅林は山の肩より裾に渉り、溪澗に跨り松林竹叢に介在す其廣さ數町歩字梅林・薬師前・東山・田・池ノ谷・梅ノ谷等の數者を包む。

傳へ云ふ、東山田の梅は 往昔重五郎といふ者あり、栽培に苦心せしものにて、其果實當園中最も大に、其味亦最も優れたりと。

飛梅伝説

（文：みなと総局工務第2課 竹田敦夫）

「梅」にちなむといえば「天神さま」、天神さまといえば「菅原道真」を連想しますが、菅原道真にちなんだおはなしに「飛梅伝説」があります。

藤原氏の陰謀により、都落ちして大宰府に流される菅原道真は幼いころより親しんできた紅梅殿の梅に、

東風吹かば匂いおこせよ梅の花　あるじなしとて春なわすれそ と詠いかけました。

あるじ（道真）を慕った梅は、道真が大宰府に着くと、一夜のうちに大宰府の道真の元に飛んできたといわれています。

これが有名な飛梅伝説ですが、大宰府天満宮のHPにはもう一話掲載されています。

伊勢度会（わたらい）の社人、白太夫という人が、道真を慕って大宰府に下る折、都の道真の邸宅に立ち寄り、夫人の便りとともに庭の梅を根分けして持ってきたそうです。道真は都から取り寄せたことをふせて、「梅が飛んできた」ということにした、ともいわれています。

東灘区章と校章

岡本の梅林は、大正末期ごろまで梅の名所として広く知られていた

その梅の花を図案化し、区章や校章として 今も引き継がれています

本山第一小学校　本山第二小学校　本山第三小学校　本山中学校

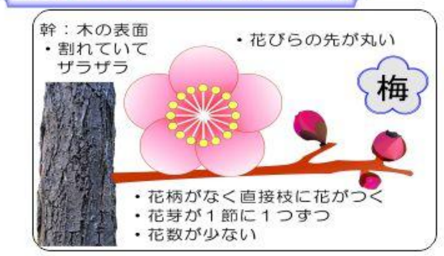
【東灘区区章】：

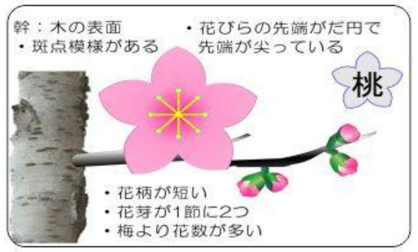
山と海に囲まれた東灘区の豊かな自然環境をデザイン化したもの

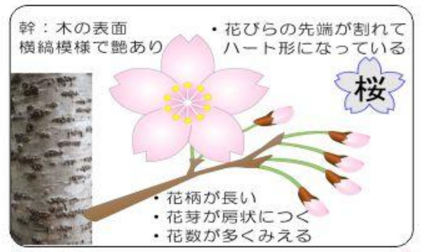
- 上の緑：「六甲山」　・山麓部分：「梅を表現」
- 山と海の境(白抜き部分)：「かもめ(港町神戸のシンボル)」
- 下の青：「海」をそれぞれ表現している

東灘区 区章

梅,桃,桜の見分け方







阪神電車の唱歌

明治４１年に阪神電車宣伝のため「汽笛一声新橋を・・・」の「鉄道唱歌」にならい、同じ作詞家大和田建樹氏で、作曲を「浦島太郎」等の作曲家田村虎蔵氏に依頼し、「阪神電車唱歌」が発表されました。

その12番に「**深江をすぎて青木より、八丁入りたる岡本に、春つげそめて咲く梅の、花は紅白一万株**」と歌われています

【会員の募集】・東灘区に在住で、梅の木や花に興味のある方

神戸市シルバーカレッジの現役と卒業生で構成されていますが、東灘区在住の沢山の皆さんと一緒に活動したく募集しています。詳細は下記QRコードで検索してください

【梅一つ火会】

私たちは、神戸市シルバーカレッジに入学し東灘区に居住するメンバーで、会員相互の情報の共有と親睦を深め、地域に貢献することを目的とするグループです。

詳しくは、ホームページ http://www.us3.jp/souryu/umehitotsubikai「梅一つ火会」をご覧ください。

「区の花・梅」の普及啓発のため、平成16年から13年間に、8箇所24本の梅を仲間と共に寄贈植樹しました。

このリーフレットはともしび財団の助成金により作成しました

作成：梅一つ火会　発行：2025年1月